

自学共育

子どもが主体の学校づくり

栄小中合同通信No.9 2025.6.17

～保護者・地域の皆さんのお声を受けて～

運動会後のアンケートで、次のようなご指摘をいただきました。

「(運動会のよさと課題を挙げていただいた上で)初めての取り組みで、先生方もご苦労されたと思います。でも、来年に向け、学校、子ども、保護者、地域で、しっかりと考えなくてはいけないのかなと思います。」

このようなご指摘をいただけることを、大変ありがたく思います。現在進めている「自学共育」を理念とした新校への取組は、栄村のよさを大切にしながらも、「これまでの当たり前」を見直していく大きな変化と言えます。この取組は、学校だけで完結するものではありません。子どもと教職員はもちろん、保護者や地域の皆さんと一緒に考え、歩んでいく必要があります。そこで今回は、皆様からいただいたお声と、学校が目指している教育について、そのつながりをお伝えしたいと思います。

子どもたちが笑っていた(保護者・地域の皆さんのアンケート記述から)

子どもが企画運営した今回の運動会、大変見応えがあり、[こちら](#)も[楽しい気持ち](#)になるものでした。合同リレーは全員走ることができて少人数ならではのと思うのですが、印象的だったのが、子どもたちの表情が笑っているように見えたことです。

実際に笑って走っている子もいて「[ああ楽しいんだろうなあ](#)」とみていてとても気持ちよかったです！

今までの運動会と全く違う、子ども達が主体となった[いきいきとした運動会](#)でした。見ていて面白かったです。

前号で「子どもが『I』から創る運動会」にチャレンジする理由として「主体性を育てること」をお伝えしました。しかし、将来への準備だけが目的ではありません。行事を子どもに任せ「子どもが主役のOO」にすると、子どもの表情が楽しそうになり、嬉しそうになり、生き生きとしてくるのです。

今回の運動会では、私たち教職員だけでなく、保護者や地域の皆様にとっても、そうした子どもの姿が魅力的に映ったのではないのでしょうか。何より、子ども自身が学校生活を楽しんでくれることが、私たちにとって一番の喜びです。

一方で、「そんな『楽しい』『嬉しい』を優先していて、子どもに本



当に力がつくのか？この先大丈夫なのか？」と心配される方もいらっしゃるでしょう。この点について、次のご意見もいただいています。

当日は、子どもたちが、それぞれに自分の役割を意識して行動したり声を掛け合って進行したりしている姿、状況に応じて対応している姿が見られ、受け身ではなく自分たちで楽しんで創り上げている様子が印象的でした。

一見、子どもたちへの負担が大きいのでは？と思う方もいるかもしれませんが、出だしのキッカケと多くの材料（選択肢）と適切な促しがあれば、子どもたちは自走して楽しみながら負担（やらされている感）なく自分たちのポテンシャルを今まで以上に発揮できる可能性が大いにあります。

子どもたちにとって、自分たちが種目や進め方を「選べる」「決められる」という状況は、楽しさとともに、目的意識を持って役割を果たし、責任を持って行動することにつながります。つまり、子どもたちに主体性を発揮する場を用意することは、「楽しくて生き生きとした姿」と「主体性を中心とした様々な力の向上」という、二重の意味を持つ取組なのです。

子どもたちがやりたい運動会を創ろうとしている姿が随所に感じられました。とても良かったです。

ここで重要なのは、子どもにとって「やりたい運動会」であることです。やりたいと思えないものでは、こうした主体的な姿は見られません。

先日、子ども達も振り返りの会を行いました。今年度の取組のよさと課題を整理し、来年度の運動会につなげてほしいと思います。また、アンケートを通して保護者・地域の皆様からも貴重なご意見を多くいただいております。参考にさせていただきながら職員の中でも来年度に向けた検討を進めていきたいと思っています。ご協力いただきましてありがとうございました。

（文責：田中 新一）